



# 回復期リハビリテーション病棟の概要

## <回復期リハビリテーションとは>

脳卒中や骨折など急速に生活機能が低下する疾患は、発症後早期の治療と適切なリハビリテーションが必要です。  
 急性期から回復期・維持期へと状況に応じたリハビリテーションが適切に切れ目なく提供されることが重要です。  
 回復期リハビリテーション病棟は患者様に対して、歩行や食事、更衣、排泄などのADL（日常生活動作）の向上により、寝たきり防止と家庭復帰を目的とした病棟です。医師、看護師、リハビリテーションスタッフ等が共同でプログラムを作成し、これに基づくりハビリテーションを集中的に行っております。

### 対象疾患

- 1 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後  
脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、  
腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後の状態  
又は義肢装着訓練を要する状態  
  
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び  
頭部外傷を含む多部位外傷の場合
- 2 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折。又は二肢以上の  
多発骨折の発症後、又は手術後の状態
- 3 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により、廃用症候群を有して  
おり、手術後又は発症後の状態
- 4 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷  
後の状態
- 5 股関節又は膝関節の置換術後の状態

### 当院の平均入院期間

3ヵ月

1ヵ月～  
2ヵ月

## ☆リハビリスタッフのご説明☆

### 理学療法士 (PT)

体の不自由な方に対して、筋力向上訓練関節可動域改善といったトレーニングや装具・物療を通して、身体機能や歩行能力の回復を図ります。

### 作業療法士 (OT)

体の不自由な方に対して、食事・トイレ・入浴といった日常動作訓練を通して、機能回復や能力向上を図ります。また 自助具や福祉用具を代用することで機能や能力の補助を行います。

### 言語聴覚士 (ST)

言葉の不自由な方に対して、コミュニケーションの能力の回復を目指します。また 注意や記憶の障害や嚥下機能に対しても関わります。

★リハビリのゴールと判断された場合は退院となります。